

平成 17 年度 第 10 回南伊豆町行政改革推進委員会 会議録概要			
日 時	平成 18 年 1 月 19 日 (午後 1 時 30 分から午後 5 時)		
場 所	南伊豆町役場 2F 防災センター		
構成員 及び 出 欠	会 長	渡辺 幸雄	出席
	職務代理者	保坂 好明	〃
	委 員	清水 清一	〃
		大野 千賀子	〃
		佐藤 保孝	〃
		藤田 仁郎	〃
		中川 洋子	〃
		山本 幸雄	〃
	事 務 局	小島 徳三	〃
		松本 恒明	〃
		山口 一実	〃
		鈴木 邦広	〃
審議内容	1 議事録署名人の選出 2 第 9 回行政改革推進委員会会議録概要について 3 南伊豆町の行政改革に関する答申(案)の検討 4 議会改革について		
配布資料	1 第 9 回南伊豆町行政改革推進委員会会議録 2 南伊豆町の行政改革に関する答申 3 みなみいず議会だより 記事(2006 年 2 月 1 日)		

(会長挨拶)

最近は様々なとんでもないニュースが報道等で流れているが、考えてみると身の丈にあった生活をするのが大事であり夢・希望を持つことが大事である。この町の財政についても身の丈にあった運営をしていくことが大事であると思います。

いよいよ行政改革推進委員会も最終段階に入り、今回は 2 項目の検討をして分かりやすく整理をしました。最終的には目次を添付するのでかなり厚い内容になるが、本日は 3 項目目から審議していただきたいと思います。また議会改革についての項目がありますが、この委員会では検討してきませんでした。議会でも検討しているようですので、保坂委員から議会改革の説明を受けた上で皆さんからのご意見をいただきたいと思います。

(議事録署名人の選出)

第 10 回行政改革推進委員会の会議録署名人に藤田 仁郎委員を指名した。

(第 9 回南伊豆町行政改革推進委員会会議録概要について)

1 月 11 日 (水) に行われた第 9 回南伊豆町行政改革推進委員会会議録の概要について説明した。

(南伊豆町の行政改革に関する答申 (案) の検討)

「南伊豆町の行政改革に関する答申」の内容について個別に取上げて説明した上で、内容の校正等を審議した。

- 推進項目 3 定員管理及び給与の適正化等 -

【視点 1】 定員管理の適正化

・この文章の内容では、正規職員を減らした裏で臨時職員を多く入れるという内容に見て取れる。なるべく臨時職員を増やさないような表現にした方が良い。または【方策】の中にある「臨時職員の有効活用」を「臨時職員の最小限の有効活用」とした方が良いと思う。また、正規職員・臨時職員を合わせて 200 名程度いると思うが、両方を合わせて削減していくというように訴えた方が良い。

・矢祭町では 1 人 2 役をやっていると聞いた。長年やっている人は対応できると思われるので、1 人 2 役を導入して定員・臨時職員を減らしていく方向で検討していった方が良いと思う。

ここでは正規職員を補充しない方策として、不足分を臨時職員でまかなうことを際立たせることによって正規職員の削減に努めるという形で記載している。

もちろん臨時職員を多く雇用して行政を運営していくという内容ではない。実施項目の中にも絡んでくるがどの課でも定例的に行ってそれほど責任が大きい業務については、一括にまとめてそこに短期的な臨時職員を当てることによって正規職員を減らすという方策が出ている。その観点から見ると短期的な臨時職員が増えてくると思われるが、正規職員は減らせることが出来ると思う。ここではあくまでも定員管理の問題であるので、もし臨時職員を減らすことを盛り込むのであれば「自主性・自立性の高い財政運営の確保」の項目で述べた方が良いと思われる。

- ・ 1人2役等にした場合に町民にも何らかの影響があると思う。行政も大変であるので町民にも協力してもらって共に協働していこうという表現ができれば良いと思う。
この項目は定員管理が大きな問題となっているので協働の意味合いを強くすると、定員管理の内容が薄れてしまう可能性があると思われる。
- ・ 定員削減をするには町民の意識改革が必要になっている。そうであれば内容の中に「町民と行政の協働の基盤整備」とあるが、これを太字にして強調したら良いと思う。
- ・ 文章に「南伊豆町の規模における定員モデルの試算では、一般行政職で104人となっており現在2人の超過となっているが、平成18年度当初においては5人下回る見込みとなっている」とあるが、一方では人口千人あたりの職員数では県下で2番目ぐらいに高いので、そのことを載せた方が良いと思う。これでは内容が弱い感じがする。
検討したいと思います。

【視点2】 給与の適正化

- ・ 昔は賀茂郡下で統一して給与の改正をしていたと聞いているが、なぜ南伊豆町が一番低いのか。
推測だが、南伊豆町は特別昇給制度を採用していないこと・他町が良くなっている可能性があること・年齢層が違うなどが考えられる。
- ・ 人件費削減という内容を入れた方が良いのではないか。
- ・ 前段でうたっているので【方策】の中で「人事院勧告の推進」ということで良いのではないか。
【方策】 勤務評価制度の導入及び活用の中に給与体系の見直しを盛り込むなど検討したいと思います。

- 推進項目 4 人材育成の推進 -

- ・内容が大事な部分が多くあることは分かるが、強調したい部分の下線が多くありすぎると思う。あまり多いとインパクトに欠ける内容になってしまうので気をつけた方が良いと思う。

検討します。

- ・研修については民間では資格を取得したら給料を少し上げるという形を取っているところもある。南伊豆町でもそういう形を取り入れたらどうか。これを導入することによって職員の自己研鑽に繋がるのではないか。

行政の仕事が多くある中でそれほど役に立たない資格を取得した場合に出すのもどうかと思う。

- ・この文章の中に町民についての【方策】が入っていない。町民に積極的かつ効果的な行政参加を望むための方策をつけた方が良いと思う。

考えられるとしたら出前講座・地域研修等の活用だと思うが、内容を検討して盛り込みたいと思います。

- ・民間派遣研修はどのようなところに行っているのか。

今のところには行っていない。昨年以下田市の職員が2週間程度行っていると伺っている。

- ・研修や自らが進んで外に出て行かなければ発見できないこともあるし覚えにくい部分もあるのでやっていくべきだと思う。

- ・南伊豆町は移住してくる人が多いので、専門的なことを知っている人が多いと思う。そういう人を調べていけば人材育成に繋がると思う。

その環境を行政支援ボランティアで皆さんの力・知恵等を町に提供していただきたいと思っている。

- 推進項目 5 公正の確保と透明性の拡大 -

- ・文章の中に「物言わぬ住民」とあるが表現としてはあまり良くないのではないかと。

ここで意味しているのは、意見は持っているが自分からは積極的に言わないという意味で使用されている。「物言わぬ住民」を「あえて物言わぬ住民」とした方が分かりやすいと思われるので変更したいと思う。

- 推進項目 6 電子自治体の推進 -

質疑応答等の意見が出なかった。

- 推進項目 7 人口増加と少子高齢化社会への取組み -

- ・方策に結婚支援体制などを加えた方が良いのではないかと検討したいと思います。

- ・「通信販売関係や医療福祉関係など大規模な倉庫の確保が可能となることや恵まれた自然環境など地域的利点を活用可能な分野」とあるが、言い回しが分かりにくいのではないかと。

ここでは「通信販売関係」が「大規模な倉庫の確保」にかかっており、「医療福祉関係」が「自然環境」にかかってくるのだが、言い回しについては検討したいと思います。

- ・方策 に「移住者・定住者向け土地・住宅の提供」とあるが、空き家等の登録制度は無いのか。

現在は無い。これについては行政改革プロジェクトの検討部会でも定住促進という話が出てきているので、それを基に検討を進めていきたいと思います。

- ・都心部から移住してきている人が多くいると思うが、そういった人達から南伊豆町に対する意見等を言ってもらえることが良いまちづくりに繋がると思う。
- ・災害時の一時的な緊急避難の場所として他県に PR していくことができればより良いと思う。

- 推進項目 8 自主性・自立性の高い財政運営の確保 -

【視点 1】 経費の節減合理化等財政の健全化

- ・方策 「下水道事業予算のフラット化」に加入促進を加えた方が良いのではないかと。

追加したいと思います。

- ・「財政不足を補いつつ新たな歳入確保の戦略を立てる」とあるが、推進項目の視点の中でその戦略等を記載するのか。

- ・歳入の確保は、別項目で作った方が良いのではないかと。

この後には公共工事の適正化・施設の適正管理を記載しようと思っているが、歳入確保の戦略については考えていない。記載するのであれば方策又は新規項目で記載する形になるが、検討したいと思います。

- ・町では風力発電等の新規参入業者についてはどうなのか。今後は町の歳入に繋がることをしていく必要があると思う。

風力発電については業者が 18 基建設する計画があるようだが、町としては反対ではないが災害の原因にならないような安全な運営をしてもらうように土地利用について説明していただきたいと言っているが、その後の反応が無い。

- ・ 菜の花祭りのイベントに使用する駐車場を有料にしたらどうか。
観光協会に有料で貸すことにしている。観光協会がどうするか分からないが、駐車料を徴収すると思う。

【視点2】 補助金等の整理合理化

- ・ 推進内容の中に商工会への補助金がない。
文章に追加したいと思う。
- ・ 方策の 「補助対象事業及び補助金額の総点検」とあるが、具体的には何を
するのか。
補助金が本当に必要なのか、あるいは必要でないのかの精査をすることである。
平成11年度ぐらいからシーリング方式によって約20%の削減を図っているが、
さらに30%削減すると平成11年度から見ると各事業とも約50%の削減となり
事業では困難が生じてくると思われるので、事業費全体で30%削減するように
配分を図っていかうと考えています。
- ・ 各団体が自立していく方策をもちろん自分たちでやっていくべきであるが、町
からも投げかけるべきだと思う。

(議会改革について)

保坂委員より2月に発行する予定である「みなみいず議会だより」をもとにして、議会運営委員会視察研修で東伊豆町議会・下田市議会を訪問した際に感じたこと・参考すべき点を述べた上で改革すべき点を説明した。

意見として下記のものが出た。

- ・ 数年前から議会の傍聴に行っているが、活気ある良い議会になったと感じる。
また地区の会合等でも今までは意見が出なかったが、今日では皆さんが活発に
意見を言い合っているので町民も意識の改革が見られるので大変良いと思う。
- ・ 議員定数については、議員も一生懸命やっていて忙しいと思うが職員も少なく
するのであれば議員も定数減をした方が良いのではないだろうか。
- ・ 議会の開催は新聞で知ることが多いが、お知らせ版に載せることは出来ないだ
ろうか。
- ・ 質問通告締切の日程を後ろにずらすことはどういった効果があるのだろうか。

今は議会運営委員会の10日前となっているが、姿勢方針演説等が出ていない段階から推測で一般質問をすることがあるのでそれを防ぐ効果があると思う。

- ・現在議員定数は12名だが、現状は10名でやっている所以で次回からは10名でよいのではないだろうか。

条例では11名ということで次回選挙から施行することとしているが、条例が施行される前に定数を減らすことが出来るかどうか分からない。ただ、答申の中には10名程度にするということは盛り込むことができる。

(次回の会議日程について)

次回の会議は、1月25日(水)午後1時30分から開催することとした。

平成28年 1月25日

南伊豆町行政改革推進委員会

会 長

渡邊亨雄

南伊豆町行政改革推進委員会

委 員

藤田仁郎